事例No.	2575
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	小原ECOプロジェクト

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織 ・観光

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

小原ECOプロジェクト

出典

平成27年度ふるさとづくり大賞事例集

大　賞

小原ECOプロジェクト　　福井県勝山市

概　要

当団体は、小原集落を山村生活体験の拠点とし、都市住民との交流促進による地域活性化、集落文化や生活様式の継承、自然資源の保全・保護を目的に活動。交流人口１，２００人／年を目標に、地元大学生など多様な組織・団体・教育機関と連携し、伝統的古民家の修復による景観保全や交流拠点の整備等を通して、交流コミュニティによる地域づくり、観光振興、環境保全を実践している。



評価された点

・わずかな人数の地域を舞台に外の力を活用して新たなコミュニティをつくりにぎわいにつながっている点が評価できる。今後の展開に注目してみたい。
・住民０（ゼロ）となっても、周辺住民、元村民、支援者が知恵を出して地域の未来を拓いていく考え方は、全国の先駆けとしての「集落維持と再生」、そして国土保全事業の雛型事例である。その視点の普遍性と環境活動は世界的にも注目を集め始めており、未来を拓く持続型産業としての活動のあり方は、特に新しい経済の仕組みとしての地域ブランド化を高く評価したい。
・限界集落、古民家という課題に焦点をあて地域づくりをしており他地域の同様の課題をもっている地域にとっては参考になる活動である。
・限界集落再生モデルとなる事例。急激な変化を創りだすのではなく、地道な取組を10年掛けて実施し、実っている。世界30カ国からのボランティアの受け入れなど、小さな村がグローバルに展開している。
・住民がわずかの集落における交流促進のプロジェクト。古民家再生や登山旅行者の利便性の向上、希少種ミチノクフクジュソウの保全活動、エコツアーなどの事業を次々と展開し、年間の入り込み客数1350人、宿泊者数743人などの成果をあげている。中山間地域における地域文化の継承や景観保全などに参考になる、勇気をもらえる事例と考える。
・人口少数の集落を大学と連携し、古民家を再生させ、交流人口増加のための拠点とし、農林業体験、山菜取り、豪雪体験ツアー、沢登りなど１年を通した活動が行われている。交流人口が新たなコミュニティとして、賑わいを創出している点は非常に評価できる。
・バランスよく様々な世代を巻き込んでいる。シンプルな取り組みですが、ご縁できることで広がりが期待できる。
・限界集落を舞台に地域コミュニティを創出し、年間1,000人を超える交流を実現したのは驚きに値する。地域資源を存分に活用したプロジェクトは一つ一つがどれも魅力的で「story」性を感じさせる。世界30カ国からの国際ワークボランティアの受け入れなど世界にも開かれた取組みを進めており、今後の新たな展開にも期待が持てる。

